

協栄産業株式会社

エクセレントカンパニー

都市油田を開発し、循環型社会の構築に貢献する環境先進企業



代表取締役社長
古澤 栄一 氏

—今回の東日本大震災についてのお気持ちを。

古澤 東日本大震災によって被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。産業界も大きなダメージを受けておりますが、いまこそ、日本のものづくり産業は底力を発揮して、一刻も早くこの危機を乗り越えていかなければならないと思っています。

—「2010年版 ものづくり白書」で貴社が紹介されましたが、ご感想をお聞かせください。

古澤 私どものペットボトルリサイクル事業とその二酸化炭素削減効果が、日本の製造業が直面する資源環境制約への対応事例として紹介されたことは本当に驚きであり、大変名誉なことだと思っています。心より感謝申し上げます。

—創業されたきっかけは。

古澤 1985年に、29歳で起業しました。当時は大量生産・大量消費・大量廃棄の時代で、再生可能な資源廃棄物もほとんど焼却あるいは埋め立てられていました。国土が狭く資源を輸入に頼る日本が、このままの姿で15年先に迫る21世紀を迎えられるはずがない、地下資源の少ない日本は廃棄物から資源を取り出して活用しなければ、いずれ国際競争力を保てなくなると考えたのが創業のきっかけでした。

創業当時、多くの企業に何度も足を運び、資源リサイクルの必要性を訴えましたが、なかなか納得して頂けませんでした。企業側はリサイクルすることで知的財産の漏洩を危惧されていたからです。私は、そうした不安を払拭するために、どう回収し、どうリサイクルし、どう消費者に手渡されるのかを一緒に確認しようと思案しました。今で言う「見える化」ですが、こうした取組みが多くの企業さまの理解を得て、ビデオテープ用フィルムなどポリエステル樹脂の再資源化事業を軌道に乗せることができました。その後も、社会に認めて頂ける企業を目指して経営して参りました。

—貴社が提唱される「都市油田」とは。

古澤 使用済みペットボトルをしっかりとリサイクルすればバージン原料の代わりに使用することができ、鶏卵パック、衣類、自動車の内装材などさまざまな製品に加工され、皆さんの手元に戻ってきます。

日本には中東のように天然油田はありませんが、使用済みペットボトルを適正にリサイクルすれば、バージン原料の代わりに使用できることを考えると、使用済みペットボトルは石油を代替する資源であり、まさに毎日街から湧いて出てくる「都市油田」と言えるわけです。天然資源を持たない我が国において、この「都市油田」を開発し、有効活用していくことが必要であると考えております。

—貴社の特徴はどのような点でしょうか。

古澤 私どもでは、さまざまな設備と人の目を使い徹底的に選別した後、特殊な洗浄により付着した異物などを極

限にまで取り除ける技術を持っていることです。さらに、マテリアルリサイクル技術を高度化させたメカニカルリサイクルの設備、技術を備えていることも特徴です。真空・高温の条件下で再縮重合反応を起こさせることで、樹脂に入り込んだ化学物質まで完全に取り除くことができます。また、再生ペレットの物性を水平展開したり、上げたりすることもできるので、バージン原料と同等の高品質なペレットを製造できます。従来のリサイクル方法や設備では、熱の影響で物性が劣化するために用途が限られていましたが、この技術によって資源循環の輪をあらゆる分野に広げられると考えております。エネルギー効率も良く、CO₂削減にも貢献できます。

—将来ビジョンをお聞かせください

古澤 今回の大震災で飲み水が不足した時にペットボトル飲料が活躍しました。震災に強い容器としてますます重要視され、生産も増えていくとみえています。

そうした中、国内資源循環を更に進めていくためには、大きな求心力が働く水平リサイクルを本格的に行っていききたい。具体的には生産者である容器、飲料メーカーさんに再生PET樹脂を使って頂く「ボトル to ボトル」を実現したいと考えております。市民の皆さんや社会に受け入れられ、容器、飲料メーカーさんが是非使ってみてほしいと思って頂けるよう、私どもが付着・浸着した異物などをしっかりと取り除き、安全性を向上させ、バージン原料と同じ品質にまでもっていければ、展望が開けていくと考えております。石油資源の使用抑制やCO₂排出抑制に繋がるペットボトルリサイクルは社会の大きな財産です。今後、更なる「都市油田開発」を進めることによって、未来に向けてのモノづくりの一翼を担っていきたく思っております。

—座右の銘、健康法は何でしょうか。

古澤 記憶に新しいリーマンショックなど、ここ10年、非常に厳しい経済環境が続いていることから、「常に最悪の事態を想定し、常に最善を尽くす」を社員、私の座右の銘として事業に取り組んでおります。健康法は、仕事をしているのが一番元気になるということと、月に一度のゴルフで気晴らしをすることです。

(聞き手 財経産業調査会編集特別顧問 岡村信克)

〈企業プロフィール〉

所在地	栃木県小山市城東2-32-17
電話番号	0285-22-7988
設立	1985年10月
資本金	1,000万円
従業員	123名
事業内容	合成樹脂の再生加工販売、産業廃棄物の収集運搬業、処分業(中間処理)、有効処理業など
ホームページ	http://www.kyoei-rg.co.jp/

※取材の様子は27日より下記サイトでご覧いただけます。
<http://www.chosakai.or.jp/>